



Hokkaido Lifelong Learning Association

ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



(撮影地 神仙沼湿原)

目次

●平成24年度「第1回理事会・評議員会開催」……	2	●生涯学習の仕事に関わって……	5
●生涯学習はどこに向かっていくのか? ……	3	●「かでの講座」のお知らせ ……	5
●わがまちの生涯学習 ……	4	●随想18 ……	6
●第5回ほっかいどう学検定実施のお知らせ ……	4		

平成24年度第1回理事会・評議員会開催

5月25日、平成24年度の第1回理事会・評議員会が開催され、「平成23年度事業報告」及び「平成23年度収支決算、監査報告」が審議され原案どおり承認されました。



役員任期満了に伴う理事・監事及び評議員は次のとおり選出されました。
また、後日新理事により役員選出が行われ、宇田川会長が再選されました。

新役員紹介

- ・ 会長 宇田川 洋 (東京大学名誉教授)
- ・ 副会長 中田 和子 (北海道女性団体連絡協議会会長)
- ・ 〃 善養寺 圭子 ((社)北海道家庭生活総合カウンセリングセンター副理事長)
- ・ 〃 鈴木 文男 (北海道社会教育委員連絡協議会会長)
- ・ 〃 畑 宏明 ((公財)北海道埋蔵文化財センター副理事長)
- ・ 専務理事 三原 和廣 ((財)北海道生涯学習協会事務局長)
- ・ 理事 小山 道雄 (北海道新聞社事業局事業センター長)
- ・ 〃 笹谷 純代 (北海道PTA連合会副会長)
- ・ 〃 田中 健一 (北海道町村教育委員会連合会理事)
- ・ 〃 谷内 昭治 (学校法人谷内学園理事長)
- ・ 〃 氷見山 幸夫 (北海道教育大学教授)
- ・ 〃 松藤 藤吉 (北海道公民館協会会長)
- ・ 〃 山田 伴一 (北海道放送株式会社取締役編成局長)
- ・ 〃 若狭 弘樹 (北海道文化団体協議会事務局長)
- ・ 監事 高崎 盛雄 ((社)北海道子ども会育成連合会常務理事)
- ・ 〃 広部 公聡 ((株)北海道銀行地域振興・公務部長)
- ・ 評議員 江本 嘉敏 (北海道高等学校歴史教育研究会顧問)
- ・ 〃 遠藤 知恵子 (北翔大学名誉教授)
- ・ 〃 小池 語朗 (北海道都市教育委員会連絡協議会)
- ・ 〃 小山 忠弘 (ふるさと再生塾塾長)
- ・ 〃 嶋井 康夫 (北海道社会教育主事協議会副会長)
- ・ 〃 荘司 信一 (北海道高等学校長協会副会長)
- ・ 〃 高倉 嗣昌 ((財)ふきのとう文庫理事長)
- ・ 〃 瀧上 春男 ((財)北海道青少年育成協会専務理事兼事務局長)
- ・ 〃 千葉 浩行 (北海道青年団体協議会会長)
- ・ 〃 前田 和道 (日本ボーイスカウト北海道連盟副理事長)
- ・ 〃 宮崎 博美 (北海道国際女性協会副会長)
- ・ 〃 宮崎 善昭 (北海道YMCA総主事)
- ・ 〃 森本 正夫 (日本私立大学協会北海道支部長)
- ・ 〃 矢代 浩子 ((一社)ガールスカウト北海道連盟副連盟長)
- ・ 〃 山本 富造 (北海道高等学校PTA連合会副会長)

平成23年度収支計算書総括表

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

(単価：円)

科 目	一 般 会 計	道立生涯学習推進センター事業受託特別会計	北海道スポーツ推進委員協議会事業受託特別会計	内部取引消去	合 計
I 事業活動収支の部					
1 事業活動収入					
① 基本財産運用収入	16,010				16,010
② 事業収入	1,491,740				1,491,740
③ 受託事業収入		39,900,000	1,030,000		40,930,000
④ 会費収入	1,466,000				1,466,000
⑤ 補助金収入	5,807,000				5,807,000
⑥ 寄付金収入	200,000				200,000
⑦ 雑収入	30,000				30,000
⑧ 借入金収入	2,913,229				2,913,229
⑨ 繰入金収入	6,524,258			△ 6,524,258	0
事業活動収入計(A)	18,448,237	39,900,000	1,030,000	△ 6,524,258	52,853,979
2 事業活動支出					
① 管理費	4,900,755				4,900,755
② 事業費	7,497,915				7,497,915
③ 受託事業費支出		37,138,971	996,655	△ 850,000	37,285,626
④ 繰入金支出	2,913,229	2,761,029		△ 5,674,258	0
⑤ 借入金返済支出	2,913,229				2,913,229
⑥ 補助金(委託費)返納支出			33,345		33,345
事業活動支出計(B)	18,225,128	39,900,000	1,030,000	△ 6,524,258	52,630,870
事業活動収支差額(A) - (B)	223,109	0	0	0	223,109
II 投資活動収支の部	0	0	0	0	0
III 財務活動収支の部	0	0	0	0	0
当期収支差額	223,109	0	0	0	223,109
前期繰越収支差額	9,014,662	0	0	0	9,014,662
次期繰越収支差額	9,237,771	0	0	0	9,237,771

「生涯学習はどこに向かっていくのか？」

北海道町村教育委員会連合会理事

豊島 滋

(安平町教育委員会教育長)

～人に任せて文句を言う社会から未来を自分たちで創っていく社会の実現を目指して～

難しい副題だと思われかもしれませんが、これは先日本町で開催された「コミュニティー・スクール」研修会で講師の吉田博彦氏（NPO教育支援協会代表理事）が強く訴えていたことです。『新しい公共』の重要性が叫ばれている昨今、自分たちが住む地域の課題を自分たちの力で解決していこうという気概のある人づくり（町づくり）に各自治体に取り組んでいることと思います。ただ、現実はどうでしょうか？

「行政はこんなこともしてくれない」「教育委員会は何をしているのだ」・・・本来、地域社会は住民が自分たちの思いを行政に投げかけながら、協働してその思いを具現化していく役割を担っています。しかしながら、実際は「人に任せておきながら、文句は言う」そんな社会になりつつあります。そのような社会から「未来を自分たちで創っていく社会」に変えて行くために本町では「生涯学習」をその要とし、住民の意識改革を図るための様々な取組を仕掛けています。教育の大きな柱は学校教育、社会教育及び家庭教育であり、それらを含むのが生涯学習だと定義するならば、それは人を変え、町を変える力になります。

手前みそにはなりますが、本町は生涯学習が盛んに行われ、質量ともに充実している町の一つだと自負しております。その一端については、「通巻第151号」会報88号でも述べておりますので、そちらをご覧くださいとして、ここでは未来を自分たちで創っていく社会の実現のために、本町において生涯学習をどのように活かしていこうと考えているかについて簡単に紹介します。

【多様なツールを用いて】

住民が町づくりについて、関わりやすい視点として学校を挙げることができます。学校は子どもたちのみならず、様々な住民が集うことのできる学びのコミュニティーです。特に本町のような小さな町にとって、学校は「地域の宝物」であり、子どものためなら、安平町の皆さんは協力を惜しみません。まさに地域社会の中に学校と家庭があり、影響を受け合いながら、良好な関係が築かれていると言えます。

本町では、それらの力を高め合うツールとして、これまで取り組んできた『学社融合』の考え方を発展させ、「ふるさと教育」や子どもたちの学びに地域の皆さんが深く関わることのできる仕組みである「コミュニティー・スクール」を次年度より導入する予定です。そこでは、保護者や地域住民などから構成される学校運営協議会が設けられ、学校運営や教育活動に意見を述べることができ、多くの地域住民の意見が反映されることが可能となります。その地域の子どもたちを地域全体で育てようという機運の醸成とともに、それに関わる大人が地域社会を自分たちで創っていけるという視点からも、このツールを言わば戦略的に活用していきたいと考えています。

【主体的なロール（役割）を用いて】

大切なロールを与えられることで、人は成長します。それは、どの年齢の人であっても、どのような立場の人であってもそうだと考えます。生涯学習の理念の一つとして「いつでも、どこでも、誰でも」というものがあります。本町では、9月下旬から11月上旬にかけて、『生涯学習フェスティバル』が開催され、文化・スポーツ・学習活動にかかわる多くの団体がそれぞれ取り組んだ成果を発表する場となっています。各団体の老若男女が集まり、実行委員会が組織されており、それぞれがロールを担いながら主体的に運営できるように教育委員会もサポートしているところです。

本町では、「安平町生涯学習計画」を策定し、その計画に基づいた施策を展開しております。本年度は平成19年度に策定した5ヶ年計画が終了することに伴い、これまでの成果の検証や見直しを行い、平成25年度からの新たな5ヶ年計画を職員の手づくりにより策定してまいりたいと考えております。計画を策定するにあたり落としてはならないこと、それは「生涯学習は自分たちの未来を自分たちで創っていく上で必要不可欠なものである」という点です。生涯学習は『自分が幸せになり、自分たちが幸せになる社会』をつくっていく重要な役割を担っていくのです。

わがまちの生涯学習

渡島管内北斗市教育委員会

北斗市は平成18年2月1日、旧上磯町と旧大野町が合併して道内35番目の市として誕生しました。

これまで道南の肥沃な大地と温暖な気候に恵まれ、漁業、農業、商工業を中心として発展してきました。平成27年度には北海道新幹線の開業により、「北海道の玄関口」となる新駅が設置され、さらなる発展が期待されるまちです。

当市では、生涯学習をサポートするためにさまざまな事業を展開しており、その中から特色ある事業をいくつか紹介します。

まず1つ目は、青少年期の自然体験学習事業として平成4年度から続いている「きっずアドベンチャー事業」です。この事業は、大自然の中で共同生活や自然体験活動をすることにより、多くの人との触れ合いを通して、豊かな心とたくましい人間を育むことを目的としています。スタート当初は土器や石器を作り、火おこしや食糧確保まで自ら体験し、人間の原点に立ち返って、たくましさを身につけ、現代の豊かさと便利さを再確認するという事業でした。近年は地元のロータリークラブや陸上自衛隊などの協力のもと、災害対応訓練や自然体験活動を通し、子ども同士の好ましい人間関係の構築やコミュニケーション能力の向上を目指しています。

2つ目は、平成16年に始まった「まちの匠（人材バンク）」事業です。

この事業は、専門的な知識や技能を持ち指導や援助のできる方々（匠）に、登録してもらい、その情報を広く市民に提供するものです。市民が生涯にわたって主体性を持った地域活動や文化活動を行うことができるいきいきとした「生涯学習のまちづくり」を目指しています。現在は登録者が69名に上り、小学校での総合的な学習時間や幼稚園・保育園、町内会などのレクリエーションに講師として出向いていただくなど、さまざまな事業に活用されています。また、市民が同じ目的を持った仲間をつどい、市が費用負担をして開催する生涯学習講座の講師も務めていただき、講座の受講者が新たなサークルを立ち上げるなど、自主的なサークル化の促進につながっています。

3つ目は、「子どもチャレンジ講座」です。

まちの匠や地域の文化団体、サークルなどの協力のもと、市内の小学生へさまざまな文化、体験活動の場を提供するものです。

幅広い選択肢の中から、新しいことにチャレンジすることや楽しさを体験してもらうとともに、講座を通じて地域の指導者の方々から社会のルールやマナーも学び取ることを目的としています。年間約60講座、延べ700名が参加するこの事業は、子どもたちに人気があり、定員を超え抽選になることもあります。



このような事業を通じ、市民が「自ら学び、自ら考え、判断し、行動することによりさまざまな問題を解決する資質や能力」「生命を尊び、相手を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性」「健やかでたくましく生きるための健康や体力」を培うバランスのとれた人材育成に励んでいきたいと思えます。

(北斗市教育委員会教育長 永田 裕)

平成24年度 「ほっかいどう学検定」 実施決定！

「ほっかいどう学検定推進機構」主催の検定実施が決まりました。

- 検定日：平成24年10月28日（日）
- 検定会場：(1)（一般検定） 札幌会場（北海道札幌南高等学校）及び石狩を除く13振興局（旧支庁）所在地
(2)（ジュニア検定） 北海道立青少年教育施設（7施設）
- 申込期間 平成24年7月18日～9月28日
- 詳細は、各市町村の公共施設の窓口にあるリーフレット（申込書付き）でご確認ください。
- 問い合わせ先：「検定推進機構事務局」（協会内）電話：011-204-5780

生涯学習の仕事に関わって

財団法人北海道生涯学習協会

主事 早坂優子

私は大学と大学院で生涯学習の理論と実践について研究してきました。

今年4月から現場で働かせていただき、大学や大学院では決して学ぶことができない、様々なことを勉強させていただいております。

学習者であり支援者である、誰もがその関係の中にいることを改めて気づかされるとともに、そこで生じる困難が自らのやりがいにつながる楽しさを感じています。

学習者が求めるニーズは何だろうか。時代の流れや、生活様式の変化、その地域ならではの課題、今日では脱原発等のエネルギー問題など学習課題はたくさんあります。その中で学習者が求めるニーズを把握し、それを講座等の形で実現し、学習者に還元していく。それが私たちの仕事の一つです。

しかし、学習者が本当に必要としている学習課題を把握できているのか、また、学習課題を把握していない人たちにどのように働きかけるべきなのか、その自問自答は毎日続いています。

そこからさらにステップアップするには、日々アンテナを張り、社会的な学習課題を常に把握すること、または、学習者とのコミュニケーションを取りながら、どんな内容を必要としているのかを常に念頭において生活することが大切であると感じております。

さらに、学習者が学んだことを生かし学習活動の客体から主体となってもらうことも生涯学習社会の実現に向けて必要となります。学習者が客体（受け身）で終わることなく主体的にかつ自発的に学ぶことができるそんなシステムや社会を構築し、一人でも多くの人々が学習機会を得る社会を実現することが私たちに求められていると思います。

生涯学習は理論ではなく、学習活動の実践によって初めて形となるものです。その形をどれだけ美しいものにし、つなぎ合わせ大きくするか、それが私たちに問われている資質なのだと痛感しております。

最後になりましたが、私は、生涯学習に関わりそれを仕事とする者として、受講者がカレッジで得た単位や称号のひとつひとつにその人の想いがつまっているということ意識して仕事をしています。そうすることで、カレッジ生の皆さんの学習に対する意識や生きがいを肌で感じられるような気がしています。

今後も人とのつながりを大切に、生涯学習社会の実現に向けて、諸先輩方のノウハウを習得し、何事にも積極的に取り組み、成長していきたいと考えております。

『ほっかいどう学』かでの講座

会場 道民活動センター（かでの2・7）〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目（520研修室）

定員 100名（当日、会場での受け付けもできます。）

単位認定 道民カレッジの指定講座として必修1単位、または「ほっかいどう学」コース2単位のいずれか選択可

受講料 1講座1,000円（但し、3回目と5回目は500円）。全講座受講（3回目と5回目を除く）の場合は、8,000円

*受講料は、受講当日に納入してください。（既に納めた受講料は、返却できません。）

1回目	5月21日（月）13:30~15:30 『北海道経済の現在とこれから』 北海道学園大学 教授 小田 清 氏	7回目	9月21日（金）13:30~15:30 『公証人と遺言を考える』 札幌大通公証役場 公証人 遠藤 和正 氏
2回目	6月15日（金）13:30~15:30 『樺戸集治監と北海道開拓の歴史』 月形町長 櫻庭 誠二 氏	8回目	10月16日（火）13:30~15:30 『北海道の秋に響くチェロの音色』 チェロリスト 土田 英順 氏
3回目	6月27日（水）13:30~15:30 『テレビの裏側、すぐ役立つ話』 北海道放送（HBC）アナウンサー 船越ゆかり 氏	9回目	11月7日（水）13:30~15:30 『ハーブの栽培で冬を元気に』 ハーブガーデンデザイン 主宰 井上 幸子 氏
4回目	7月17日（火）13:30~15:30 『北海道でものづくり』 デンソーエレクトロニクス 社長 杉本 正和 氏	10回目	12月11日（火）13:30~15:30 『古文書に見る男の生きざま』 ノンフィクション作家 合田 一道 氏
5回目	8月29日（水）13:30~15:30 『地域デビューとコミュニケーション』 北海道医療大学 准教授 長谷川 聡 氏	11回目	1月18日（金）13:30~15:30 『北海道の巨樹・巨木』（仮称） ほっかいどう学（自然環境）の会会長 遠山 武 氏
6回目	9月13日（木）13:30~15:30 『新幹線が運ぶ北海道の未来』 北海道商科大学 教授 佐藤 馨一 氏	12回目	2月6日（水）13:30~15:30 『アイヌのチャシについて』（仮称） 東京大学 名誉教授 宇田川 洋 氏

随想 18

酒五訓の話

6月2日、当協会の新谷淳治前会長の一周忌法要があった。前会長が常日頃、説かれていたのは“広場”に集うことの大切さであった。人が集うことによって、個人ではなく社会へのまなざしが広がり、地域の発展につながる基本であることを指摘していたのである。そしてそこに美味しいお酒があれば何をか言わんや、である。前会長が何かの本を読んでいて面白い言葉があると教えてくれたのが、これから紹介する酒五訓である。原作はオックスフォード大学のヘンリー・オールドリッチ博士(1647-1710)とのこと。

- 一 良き酒あれば飲むべし
- 一 友来たらば飲むべし
- 一 のど渴きたらば飲むべし
- 一 渴くおそれあらば飲むべし
- 一 いかなる理由ありといえども飲むべし

私の知人がさらにインターネットでこれを探索してくれた。原文はラテン語で、英訳されたのが、If all be true that I do think, There are five reasons we should drink : Good win - a friend -

or being dry - or lest we should be by and by - or any other reason why. (いいワインがあるから 友がいるから のどが乾いたら あるいは来るべき未来を恐れるから あるいはこれ以外にどんなことであれ理由をつけては酒を飲む) であるらしい。先の酒五訓と名付けたのは新谷前会長らしいが、その名訳は酒精と言われた詩人・随筆家・翻訳家の田村隆一氏(1923-1998)の言葉とのことである。田村氏は「大切なことはすべて酒場から学んだ」とも言っている。氏の知遇を得ていた一人が吉増剛三氏であるとも言いが、吉増氏は現代日本を代表する先鋭的な詩人の一人として高い評価を受けている人である。その吉増氏はまた私の別の知人を介して私のお店である小さな広場にたまに顔を出してくれるのである。

このような連鎖というかリンクを生み出しているのがお酒であり、広場なのであろう。吉田松陰の私塾である松下村塾の現代版を目指して小さな広場を各所で設けられたらすてきなことであろうと考える次第である。

(財) 北海道生涯学習協会
会長 宇田川 洋

事務局からのお知らせ

●新会員紹介

次の方々新たに賛助会員になりました。今後ともよろしくお願いいたします。

個人会員

- | | |
|--------------|---------------|
| ・藤内 英夫 (札幌市) | ・森元 忠恒 (札幌市) |
| ・櫻井 良之 (札幌市) | ・相馬 秋夫 (札幌市) |
| ・西尾 聡 (札幌市) | ・堤 邦雄 (札幌市) |
| ・伊藤 信彦 (札幌市) | ・小野寺 淳司 (札幌市) |
| ・原田 賢一 (札幌市) | ・加藤 保 (札幌市) |

●生涯学習協会賛助会員募集

- 賛助会費：個人会員～1口 3,000円
 団体会員～1口 10,000円
 (個人・団体、何口でも可)

会員の方には、会報「ほっかいどうの生涯学習」(年4回発行)を送付させていただきます。

振込先口座：郵便振替

口座番号～02730-8-6754

口座名～財団法人北海道生涯学習協会

※手数料のかからない振込用紙は事務局までご請求ください。

編集後記

- ・今年も半年が過ぎてしまいました。
- ・光陰矢のごとし！とは本当に的を得た表現だと思います。
- ・本来的に、北海道は5月の中旬から6月にかけて一番良い季節と云われてきました。
- ・それで、今年はどうでしたか？
- ・この頃耳にすることばに「地球の温暖化」があります。
- ・たしかに、寒い時期の中でも異様に暖かい日があったりします。
- ・しかし、春夏秋冬のどこかの部分では、急に暑くなったり、寒くなったりすることは当たり前のことですが、近頃(近年?)の異常さはどうでしょうか。
- ・5月の北海道でも急に暑くなったと思ったら、乱気流が発生ということで急に冷え込んで雪や、霰になったり、あけくの果てには雹が降ったりもします。もちろん、このことは北海道に限ったことではありませんが。
- ・北海道でよく云われてきたことばに、「ゴールデンウィークに遠出((例)道央～道東間など)する場合には、スノータイヤにしておきなさい」など、これは極端な例ですが、この大きな変化に私達の体がついていくのが大変だったりすることもあります。
- ・人間も自然の一部です。この動きの激しい天候に負けないで、今夏を乗り切ろうではありませんか。